

山内一豊は、織田信長（1534－1582）の武将であり、信長の指揮下で 16 世紀後半の大部分の戦いに参加した。彼の妻、千代は岐阜県にある郡上八幡城主の娘だった。

その地方の伝説によると、千代は一豊に、"私だけを愛すれば、私はあなたが城主になる夢を実現してみせます。"と言った。二人が結婚したとき、千代は親からもらった持参金小判十両のことを夫の一豊には告げず秘密にしていた。ある日、地元で馬市が開かれ一豊は素晴らしい馬を見たが、高価すぎて誰もがその馬を買うことができなかった。千代は夫を信長の他の武将たちと引き離す絶好の機会と考え、秘密にしていたお金でその馬を買った。その新しい馬に乗った一豊は信長に注目された。信長は「織田の武将の中でこの馬を買う者がいないのは、織田家の恥になる。お前がこの馬を買ってくれてよかった」と言った。

信長のもとで、一豊は最初近江国浅井郡唐国（現在の長浜市唐国町）城主となり、それから長浜城、掛川城の城主となった。彼は後に徳川家康へ忠誠を誓った。1600 年に岐阜城への攻撃と関ヶ原の戦いでの功績で、一豊は四国の高知一国を与えられその城主となった。